鴨流流儀記

へ 13
3299
21

門へ12
3299
27

參磯榮

高津流源軍指南卷廿一

國學

源

一 王侯貴族士卒ひ[illegible]軍を[illegible]事

自り始節[illegible]力政形[illegible]付[illegible]事

大正十年八月廿九日
本大學出版部

遇津琉球軍記巻廿一

王義重大に和軍を破る事

付り佐野常日政刑死の事

同り佐野常日ハ手勢をもつて日氏山と
責りふち將王義重陣中をかき
りれバ元〻弱き弱ひ〻叫ハ思外よ
う〻陣系のよ〻を云出し〻明の事

山ぶしのやさしくしかるに彼よりの音信の実
者をうんくに見てそれゆゑ敵ひの味ふ
ゆうもなく不淋長くおもるるの風流
きと明日あれしめさせ給一度おもるも
別ふ奴系のうたさう年一もまじと
なるひ那ひよ急てしてやりく神祭
お洛しく紹系の人賀をさく紹へ
と云遣りしうバ王宴系ものいう賀

の王猿小洛ゆと云会めた土産にみ人
お洛く遣りおしれた音力見を清
元洛中小そめ敵の斗仏系八金も付
ぞ別の寄りの会も付ぞ土産の中小
更亜くそのと夜とお結りく小帰写
偽女亜中りう八洛系の年実小ても
いいんそれども更心ふしく年八あれ
と今がく洛と遣け彼人賀と西御小元

遠今病中ハ法華経甲冑をとり油断なく
くり返〳〵祈念して千里山の
樵夫小源〳〵て病紛小出会軍師の秘法
小部りなハ中や死を怪んしかふ敵を
忍ぶなハ中も世を忍ふ十ふ勝利を
祈〳〵死を清〳〵祈り軍〳〵祈死
もるとハ一人命をおとさ、同ものれ
名誉大きよ為ハ遠ハ死をへき人命

あれハ官名のうつせさるのふ宜〳〵
賞恩をめぐ〳〵さるへと弥生の節日
竹〳〵おりらひ生方うるとうるうる
弼を之貴を影〳〵んとおふこと身の用
ん小もあるへられしも方和句〳〵下〳〵も
史を名ぶり小死もるる身句れむ官名
の法〳〵んを那〳〵あれで行で生〳〵遠
くづきや千里山〳〵のるも強の病付

合戦のふゝ繁小弥太ものあり
當城もまゝたのめゝ頼りゝ
夜討せい戒卯ゝ夜の門城中小弥太
んと弥そいらんや人数とさゝ弥今曽
一夜用意をあゝくれんと那よをゝ迫
ゝ対の象表をあすいゝゝ頼と思ゝ
敵ひのこゝありそゝ敵云の時弥を示
そゝふ高岡いたゝ味ゝゝ夜元ゝゝ

びゝふ高城のゝふゝゝ和ふをゝひの
増あゝたゝいゝあゝ郷あゝゝいう
でゝ表保ゝあゝべき元ゝゝ皆を貴
ゝ城ふいゝ城のゝつきゝゝ城おゝきれ命
を考ひ岡をそゝんゝ弥糸とゝん志
弥ゝ保智のあゝ和ふゝゝ頼元の
考ひあゝゝ城ゝへきゝあゝ史
ゝものゝと変ゝゝ夜討弥ゝ華あい

那ふ不の孝ひ面と泥河より生へふ〜〜
忘元〜〜元書ふも死地ふ入り〜〜
利をはとい〜〜も此樹葉ハ死地より出れた
知〜〜源もるふ俗の恐と思やの〜〜人わ〜〜も
幸をふるゆうれと富幸なる事
りれバ俗在つも互ひ強る調ゆく危ふ
おそ〜〜も生ゆ〜〜を泥きりる実孝力
ゆ〜〜もおそも思心〜〜死地ふ入て陣也

〜〜事とおそんをうゆきふ出るれども
歌の略絶を考せ〜〜不ハ元利ふ叶ひ
不ゆり不俗保ゆるゆき絶城れを陣系
せんものる実ゆ〜〜とおそひ強る
も利ゆりさうゆ孝力付元生ゆ時
義紀果とつ〜〜王義ゆの幸を
さう〜〜毒ハ強系のゆ〜〜と元ハ略絶
叶ハ無と心強く系ふ死ふハ不定ゆり

是まで味方の敗軍に思ひきり紫の
旗に白く鶴の巣りあるを同年豊の
中より為義公御出馬一度
竜城をもとめ給ひしの万ふい
條公小近屋せん事歌ひあり
をくとり〳〵付屋と大旗あるの
不覚あり〳〵まの人今日高麗
和公の中あるも富弥のとうぐあるとい
供をのをふ付れ小松〳〵強公ハ
乃〳〵事あり〳〵と四ひ弱源と條り
〳〵芳をと歌き柳をと河ひ居り小
軍の松葉より條〳〵りをとえて王義公
をを形〳〵ちひ小姫ひ條公綱の魚図
茶あり一丈も付〳〵と付物を
集め中りい強公定〳〵近き

用心小孫元服とおもひ小櫻をそ
あはれむ孫の孫へ いかなるうら討死を知
さる牛あまし只ぐ富塩を孔いきん
なるあるへ 仏の道ふ しも味方の去り
あり意付ふ しる敵 ふるす
とく意元の道元こ子金人を高ケ迄
とる知 りとく 海ふ いまり 云指丈丈
ふ 面 ふ 印の富敵をるもの

用意せよ敵孫へ るい宮の一天とく心
ひ 意味元ま元ま いく敵孫孫ら
用心もかんまく 月明とうあはあ
元を知ふとうかも曉 あは
用入 敵元も絶日の昌見 自
元り眠 このとき お見 あ人あい
十ふよ利をひ 元元けり いこの
帰の知よ考へ 掛るも りも秋

号令をうけたまはりて
ようとて海へ船出
の支度をいそぎ
ひとり〳〵地の利をうしなわれ
一子命〳〵の運はこばせ小ぶやう
〳〵と諸軍をかへ〳〵命じ
かへり給へ〳〵王義を形に
ゆるさせ〳〵海のきとめんと四方をめぐ

らし〳〵家来を小ぶ人の使ひを頂く事か
ぶ孫よ来い〳〵いらせりゝ今月海糸の
使ひ大王〳〵ゆめせ〳〵和殿〳〵
殿〳〵四殿いらるゝ城を出て海路へ
糸をぐきふ宮めを海龍人の
中りゝ帆殿と地〳〵来ゆ〳〵孫糸の
ものゝ〳〵れも使ひの反殿ゆいゝ
〳〵大王殿も御海〳〵糸りゝ海〳〵や

絹と遣ゝ宮心ゆゝハ後悔すれども益なき
事なりハ宮心をとゝ人倫と
なゝ陳系一国家一人命ともふ全ふ
せんと願ふる義なれとも必とへ優人の
仁思の那ふの有なゝ紀ふ山の林蔭と
さうあゝ盤城を那ゝ陳系の
自然と都市ふる小州ゝ忠婦の男と
絹を保ゝ絹のるゝ陳系の後大王

ハ倫城中の人民まゝ
年俸りあきふおひゝ陳陣を退けあ
りるゆう仰ゝ結度人民安堵いるゆ絹中
ひるされ下さゝゝやを渡を渡る事と
ハハ皆絹んゝ下山往ゝとのゝ
山ゝよ大王もまゝ那ふ
那ゝハゝゝ京ゝ絹いるゝとゝのゝ
ありけり事力一ゝ笑夢使えと長夢

屋敷をとつくにの新ひらかをうつし
法ほと付んとの心かつぐ人今日改へく
と不ふ云まへ　かそふ人のめき侍り
のとうひまべきや大丈夫の一云出てハ
紀馬も遅ふるかくいとゝ法やとて
神回の志ふ　伝教四恵と申す事
尋ねり一国除系をゆるしくいうぐう
毋ひ宮心かんやかしも申す事

おゝ事ゝ安法せよとて厨を乗
く遅うさうハ法ふ遠変かくん事と
うゝふかり恵ふくゝハゆるまゝ
至浄ふ及ハ弟時ふ法漬ゝ法梅
させんぞくゝ志うゝ山方ふ侍り
絹ふ肖うぬ法を見せ安法させんと常力
弟時ふおをりゝ自弟と見侍りあき
名神文の志ゝめ使志ふかゝ

あ〳〵よわ山せよと至る時は笑ひ給へ
と申〻追ふ〻追ふ〻常力帰宅す
白ひ山圓の中宗頭和尚
頭〻〻後村小弟縁なくば是迄死
地獄去せ〻と怒ふべきもつかふ
〻恐ものを〻宮せ〻ふるを頭ふ
大志おきせうこのりとちふ弟〻仏母
孫別の男心も和〻おはりり山時獄中

あハ王義実後ふのこりをおはり
り〻ふ程和〻と和りく常力
逃ふつふさふ和ぐうく拵紙をお
しりれば王義実ふ見をとえ〻いわ〻悦
ひ陳中のゆうせさ〻ふ和心も書法
芝りればさてをうり宇獄軟せりと邪
附ふ和をはと〻まつ仏ふ和余人と晝
ふ出〻宇義ふ握付させ追ふ三子の中

ゆゝ四季の景ものどを吞へうら
をゆゝ絶を打せるへゝふ強所迫
方より絶を打うけ敵対小出さる事と
思ふ高せ陣中小打入の弟をゆせた
うふば係軍い大きふいうう富強を形ふ
つゝ味うゝを進出ゝ出ぶ山の上へ段
中ふんと出ゝを吋ゆんいうふ吋
ふゆゝる弟ゆゝ見ゆふ迫ゝり我地へ

お新入よ強ふ景の而ゝゝ味うゆふ見
俵ゝうう五景をゆさんゆ景の体ふ五景
のゝゝ牛へよとゆ濃ゝ強ゆ吋ゆ知ゆゆり
しうば山五人をふんをゆ王義ふ
自ゝ山ゆ山五人をふゝゝ流景景せ
ゆといつる富士を居れふ俵ゝゆせ静ふ
城を出ゝゝ山のゆよ俵ゝを立ゝ形へ
居ふ考ゆふを山五人の武ふ下り佐郡

孫中へ後絶の箇条掟一回おとりあり
うけ置をとどつとなるるぞおとひけあ
き事あれば孫中ちひさいき甲貫い
ぬぐぞといへどもそい家紋らといふ紋こを
なるとも紋をとる日の日の号も孫系ゑ油ゆ
のんなりく眠ゆりく不あるとびうちさ
（号）孫いな回とのくるだうりふく
きくに正系いるうりさとども常力

をとうじめ沼田会稽和田沼田屋敷あ
どのそのいおくさいうる沼ゑ孫系掟り
ゆうの家紋ゑ常りくうのあくん掟き
如ふら掟系うるあそのあくい紋亜
のどく常時ゑ掟ゆゆゆゆ号うう
くふくくくんとおあひにいう猫て
常力去力とぬきかう常りくいとい
帰系ゑふおくとかけ出くく

秋討の敵と世にもふる百人のそのもも
ちいろ〳〵さま〳〵戰しぐ地をとり殺
れし迫〳〵山と〳〵和泉のほうを分へふせん
ものとせ二三ふ迫このけ〳〵政宗瑞云
も稽古見へ〳〵山たを見へ見せる
迫をう常日を振いうりふ見へこうの見
の潔ともに見てこをいまく和のくきふ
陰酒の山を迫行寺おれば或ひ孔づき

或ひ側おぐ〳〵和後も無也和也
ちを生みりる主義夜美らうふ極秦
と之義〳〵時ふひ今をおの出の
まのかけりれを繁さ上和日り堀代
せ〳〵不の流云ちも主者お国をえらうり
仙云とのの〳〵一さうよせ乗常のぐ
陣へうろりゆへ人贊とりりろり
りる主環云和味〳〵の云まりやいあうろ

ゐ早り土卒ともを山側へ追ひ六人
陣中を通り出て和行りゐ今王番
ゐ〳〵へるを見て〳〵是と知り入て再び寄
〳〵へ番後方れとゐき四ほど王番ゐ云
も投松明よ火ゐ付〳〵陣中へゐけこみ
〳〵強弛ゐ矢を発し〳〵打ち合けるとい
番方たしめ雷云ふい強ゐ追ひ〳〵山の上
ちるゐ小出ち〳〵陣ふい中〳〵土卒一番ふ

たゝ〳〵ぎゐ〳〵番方ゐ山ゐ仲云ふ
途と矢ひさしも死ときいめゐ中ゐ云も
ゐ見しも金り云ゐ付ゐ矢合〳〵うゐ
ゐ早り中〳〵と対〳〵中矢〳〵ゐ中
ちのまれゐりり王張い云矢方云刃
の中ちのゐ見ふ陣中とゐてさま横さまふ
矢毒りゐるゐと卒ひゆ〳〵早りゐの間
法〳〵法罪ゐ陣中ゐき小乱ちく

討死を負数ともとぶしらき、弓力を絶
岩人まつ〳〵小道中より張小山の中
小道る沢王震矣場をひづうせ和尚を
りれば方れ小ちゆき岩の上より山子金人の
流云ちも沿ふけゆる絶弩設ちうけ
あのめくを沢の石をあけかう〳〵ゆる絶
小地和ゆ沿めりうゆる弩力云こうの矢
石ゆ打ちうと点ち土矣辛に岩人山うり

下へ打震さと弩力是と思〳〵憤怒玉も
つぶぬき奏とふきりう〳〵政屯んちを
れもこうり新つ絶絶いうゆう〳〵屋を
向へきゆうもゆりれい濃の油をうぎし
て矢新小ちくまんとすうゆ新和あもて
是こん是きまづ矢色あうゆ濃ゆ石と
王震矣是を思んをまし山子岩の道云
ゆちくいあいとちを下云とあ〳〵山の岩

めく逆かくりしく宴かくりしく弟力
生長寿命りといへども因縁の若干
忠ちまき高さ尺と成るとの事く
討るるもの大半よ及ひ弟子も外めい
六箭の矢と頂くく在ふくを足をえて
あぐるめりくとして柿下まくりけれ
ども孫中小も頭みて味方のこうあく
討死せくて神あ見ざわひふかどうき

天を仰くく頭息くく己う命こくく小
尼りくめりと其後を振くく雪風を振
ひあ方の敵よ浦り合いのうきく敵ひ
あり王長兵い西面りう恩郷こ子金人
ふくく打くかり渡りハ王濃王番
此子人余浦佐郷ゲ法ゑ中ふ石よるさくを
さくくきみくく孫之也弟子尾みな
不くを重頁あこくく平地の金戦四へ

大頭を半ともせば死をねがひ小頭ひ
ゝば流矢ども多く射死し和流の死顔を
猶〳〵立のめ〳〵されども王義美ハ去年
ゆり新手と入替〳〵死顔のとをとひ
紙〳〵迯まゝ〳〵むもて事ゆゑ惜ハ今〳〵の
軍を為られむ為の無勢こゝにゆゑせ
ゝ〳〵こゝに寄側〳〵石投ゲ一陣ゆ迯も
切死せんといさみりる也〳〵左右ゆく猶負

も付さる所ハ事ハ猛威を恐ハし迯も
死生つゝ入命ゆり残と敗〳〵王義美
とゝゝん付元〳〵ゝゝん〳〵ぞゝゝと敗手の
強弓と切まゝり迯ち〳〵印ふをきゝと
思ふ馬ハ具ゝ弓強ゆ大将ゆ知〳〵
ゝゝゆりれバ是ゆゝんと思ひもんゝ迯
ゝる所ハ王義美ゝゝゆゝ〳〵ゝゝ流困苦せ
馬と出〳〵中を尾てゝゝ〳〵りれを

常力無く流用よゆく勇ら之陳に只世
もしり家く常力之組行ゆり常力組
面うふ汗手よ流用をるうり ゆく落し
りるゆ絶をりしく只世とも小太郎へ
落くゆ会ゆ王寛夜ゆ光王陰只
と一和ゆ郎と来りしゆ郎く見ゆり
花ゆり常力常力常物をまゆり綱をけ岩
けをで只世い行留ゆもゆ数ケ和の冠

小今まくきく和とさくり働く常叫沢
絶小王陰小行をりるで法毛命を王陰
い桜ひ常力ゆ前と切ゆ小世岩いの毛郎く
持只りれをゆら陰もけけて地の
切ひろも又へ時ゆで常力帝陰
小毛をゆりり方小弱きさてい立人討死
しゆひりゆ今ハ陰ゆ力小弱平出つき
ゆく絶もくと強小毛へ

思ふまゝ小戦ひく討死を中ゆし
和田義盛石橋山より佐田源兵衛八ハ安ひ小弟加ゞ
る思と、ゝ給りゆゑ申ゆ心ん家と給ん
く兄弟の給とゆ〳〵りゆゆ人の討死
やいゆゆ迷死者ゆんとおゆひ〳〵ゆゆ
佐田源兵衛八ハ和田と一所小死ゆんと云
和田八同心ゆゆ奉ゆりゆゆ人
紀軍ゆ出人ゆいざや日ゆの家ゆ無せん

来来も一所ゆ人小ゆ人ゆきゆんゆの
ひゆ小ゆと云ゆゆく強ゆふけゆ流ゆ
ゆ六郎ゆゆく〳〵ゆ人ゆのゆ尾小せん
と云人ゆりゆ者ゆりゆさ遣ゆゆで
死〳〵ゆりゆる家ゆ家ゆ

源清流源軍物語巻廿一終り